

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

- 分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験 -

1. 今後の見通し

予測期間: 2002年9月中旬から10月下旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 来遊資源量は9月中・下旬に増加傾向で推移し、10月上旬には最高水準に達し、10月中旬に激減し、10月下旬には低位水準で推移する。
 (2) 漁場: 主漁場は9月中旬に釧路沖周辺に形成され、9月下旬には襟裳岬に達する。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 9月中旬の来遊状況は断続的で数量は低水準であるが、下旬には増加に転ずる。10月上旬に来遊量水準がピークを示し、中旬に一時低下するが下旬に再びやや増加する。
 (2) 漁場: 漁場は9月中旬に散発的に形成され、下旬には南北に連なって出現する。10月にはやや分散する傾向を示すものの、継続的に形成される。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 9月下旬以降、低水準ながら来遊があり、10月中・下旬には平年並みの水準で推移する。
 (2) 漁場: 比較的早く常磐南部から鹿島灘の海域にも漁場が出現し、後続群が順次加わる。前年とは異なり長期間にわたり犬吠周辺に漁場が形成される。

2. 予測の概要

海 域		9月中旬	9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	高位水準	急減	低位水準
	漁 場	落石～釧路～襟裳沖	釧路～襟裳岬周辺・沖合域	襟裳岬周辺・沖合	襟裳岬沖合	襟裳岬沖合
三陸海域	来遊量					
	動向	断続的	やや増加	中位水準	一時低下	中位水準
	漁 場	分散的	北部～南部	北部～南部	南偏傾向	南偏傾向
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	低位水準	増加傾向	横這
	漁 場		常磐・鹿島灘	常磐・鹿島灘	鹿島灘・犬吠周辺	鹿島灘・犬吠周辺

3. 漁況の経過概要

(8月下旬)

- 1) 道東海域： 8月下旬に道東海域で漁獲対象となった来遊資源は、以下の(1)～(3)の情報から、近海域を北上回遊して道東海域へ来遊した北上期の末期の魚群であると考えられる。
 - (1) 来遊量： 8月下旬の来遊資源量の水準は、資源量指数から1998～2001年を上回り、1995～1997年並であった。
 - (2) 漁場： 8月下旬前半は、主に襟裳岬東南東30～60海里付近並びに釧路～落石南沖20～70海里付近に形成された。後半は、やや東寄りに移動し、厚岸～落石沖20～60海里付近と80～110海里付近に形成された。これらの漁場は親潮水域における表層の潮境付近に形成されていた。
 - (3) 魚体： 漁場によって、また、群れによって魚体組成が異なり、大型魚は群れによって皆無から4割程度の出現であったが、中小型魚はいずれの群れからも認められ2～7割程度の出現であった。千葉県水産研究センターの測定調査によると、襟裳岬東南東沖で採集されたサンマは肥満度が高く粗脂肪量も多い傾向であった。

(次回の中短期漁況予報の発表は9月19日の予定)